

お申込み～実施までの流れ

毎年、以下のような流れで実施しています。

1 お問い合わせ・お申込み 1月中旬～2月中旬

参加校募集のご案内を都内の各学校へ郵送でお送りします。
お問い合わせ・お申込みは「NPO法人芸術家と子どもたち」
(TEL:03-5906-5705、FAX:03-5906-5706) までお願いします。



お申込みフォーム

2 実施校の決定 3月～4月

お問い合わせ・お申込みいただいた学校と連絡をとりつつ、
様々な条件を考慮して実施校を決定します。

3 実施校ヒアリング 4月～7月頃

コーディネーターが実施校を訪ね、
希望内容(ジャンル・スケジュール等)をヒアリングします。

4 派遣アーティスト決定 ヒアリング後、1～2か月程度

コーディネーターが各学校の希望内容を踏まえて検討した上で、
最適と考えられるアーティストを決定します。

5 事前打合せ 実施1～3か月前

コーディネーター立ち会いのもと、派遣アーティストと
各学校のご担当の先生とで実施内容について打合せします。

6 ワークショップ型授業の実施 1回2コマ×8～10日間程度

コーディネーター立ち会いのもと、アーティストによるワークショップ型授業を実施。
授業後、ご担当の先生とアーティストとともに毎回授業を振り返り、
次回の授業に向けて打合せを実施します(以降同様)。

成果発表会(公演)の方法検討

各回の打合せの中で、適宜、成果発表の内容に応じて
音響・照明・美術・衣装などを検討します。

7 成果発表会 公演

保護者や地域の方々、他学年の児童・生徒などに向けて成果を発表。
アーティスト、コーディネーターも立ち会い、子供たちをサポートします。

お問い合わせ＝NPO法人芸術家と子どもたち(「パフォーマンスキッズ・トーキョー」事務局)
〒170-0011 東京都豊島区池袋本町4-36-1 旧文成小学校2階
TEL:03-5906-5705 FAX:03-5906-5706 E-mail mail@children-art.net



PKT学校 詳細ページ

<https://www.children-art.net/>

令和5年12月1日作成

主催＝公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、
特定非営利活動法人芸術家と子どもたち

助成・協力＝東京都

ARTS COUNCIL TOKYO



パフォーマンスキッズ・トーキョー

学校向けプログラム | 事業紹介



プロのアーティスト、 ホンモノとの出会いを通して



身体を動かして、頭を使って、心を熱くして、仲間と一緒にダンスや演劇の作品をつくる。

その過程で、子供たちはたくさんのことを体験し学び合います。

決まりきった表現から少し自由になること、

他者の表現や感覚と、自分のそれとの違いに気づくこと、

意見の違いや多様な表現を尊重しながらひとつの作品にまとめていくこと。

そこで学ぶことは、単なる技法にとどまりません。

芸術家という、表現とコミュニケーションの専門家の手を借りながら、

やってみよう、という一歩を踏み出す機会になるに違いありません。

きっと、普段、引っ込み思案な子供や、授業に参加しづらい子供、

あるいは、自分に自信が持てない子供や協調性に課題がある子供にこそ、

パフォーマンスキッズ・トーキョー(PKT)はかけがえのない体験になることでしょう。

堤康彦 (NPO法人芸術家と子どもたち代表)

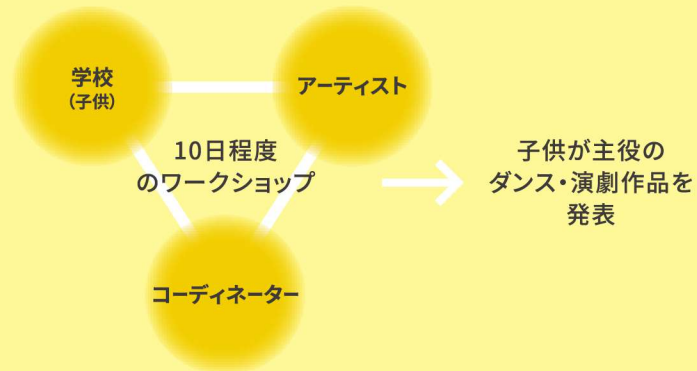


パフォーマンスキッズ・トーキョー 学校向けプログラムは、

ダンスや演劇、音楽などの分野で活動するプロの現代アーティストを、

都内の小中学校・特別支援学校に派遣し、10日間程度のワークショップ型授業を重ね、

子供たちが主役の舞台作品をつくり、発表します。



「創造力」「コミュニケーション能力」 「チャレンジする力」などの育成

舞台作品を集団でつくりあげていくことで、子供たちの「自主性」や「創造性」を育むことはもとより、「コミュニケーション能力」「チャレンジする力」「イメージする力」等の向上、あるいは、「自己肯定感」や「他者を理解する感覚」の醸成など、様々な教育的効果が期待されます。

丁寧なコーディネート

各学校のニーズ、対象となる子供の特性などにあわせて、最適と考えられるアーティストを派遣。コーディネーター (NPO法人芸術家と子どもたちのスタッフ) が事業の開始から終了まで立ち会い、ご担当の先生方とアーティストのかけ橋となって意思疎通を図り、指導方針・方法やめあて・目的を共有しながら実施します。既存のプログラムに従うのではなく、それぞれの学校、子供たち、先生ならではのひとつひとつオリジナルの内容を丁寧に組み立てることができます。

ダンスや演劇、音楽の プロのアーティストを派遣

プロの現代アーティストならではの視点で、子供たちから出てくる表現・アイデアを活かしながら、子供たちが主役のオリジナル舞台作品をつくりあげます。舞台作品は、授業や学校行事の中で、保護者や地域の方々、他学年の児童・生徒などに向けて発表します。子供たちが新しい表現に出会うことで、子供たちの可能性を広げ、作品を鑑賞する人たちにとっても新鮮な体験になることが期待されます。

概要

●対象となる子供たち

小学1年生～中学3年生

＊各校1～2クラス程度 (応相談)

＊特別支援学級、特別支援学校での実施も可能です。

●ジャンル

ダンス・演劇・音楽等

●実施日数

8～10日間程度

●実施時数

1回 (1日) あたり2時間、計12～20時間程度

＊日数や時数はご担当の先生と相談しながら調整します。

＊そのほか、授業時間割、実施場所、発表の機会の調整などをご担当の先生にお願いします。

＊授業時数は、小学校は45分単位、中学校は50分単位です。

●実施場所

体育館又は広いスペース (多目的室等)

＊発表は原則として体育館で行います。

●発表作品

児童・生徒が出演する15～30分程度の
ダンス・演劇作品

●発表の機会

授業参観、全校集会、学習発表会等

＊発表は、授業の中で保護者や地域の方々、あるいは

他学年の児童・生徒等なるべく多くの人たちへ公開します。

＊校内調整や保護者への連絡等、学校の授業及び行事として必要な事項については、ご担当の先生にお願いします。

●実施教科

使用する教科・領域は自由

＊総合的な学習の時間、体育、国語、図画工作、音楽、生活単元等。これらの組み合わせによる実施も可能です。

●費用

学校側の財政面での負担は
基本的にありません。



約10回のワークショップ型授業を通じて、 子供たち、先生、アーティストが ひとつの舞台作品をつくっていきます。

都内のある小学校では、先生の「想い」からPKTの授業が始まりました。
『北斎漫画』をモチーフに、小学6年生がダンス作品の創作にチャレンジ！
『からだのキモチ』という作品が生まれました。その実践例をみてみましょう。

事前準備 ----- ワorkshop開始 -----

打合せ

先生の想いや要望を 丁寧にヒアリング

子供たちの普段の様子を伺い、グループワークを重視することや、他教科の学習との関連も考慮しながら、どのような内容にしていくなか、その学校ならではのワークショップ（WS）となるよう相談。

先生の想い

これまで取り組む機会の少なかった少人数グループで相談しながら創作する時間は貴重で、その過程を大切にしていきたい。また、普段学校では「書く」「話す」ことに偏ってしまうが、そうしたことが苦手な子供も活きる場をつくり、子供たちに様々な表現方法を体験させてみたい。

○実施例学校データ

対象=小学6年生3クラス97人
実施時期=9～10月
発表=学校公開日（土曜日）
授業日数・時数=10日間・35時間
（1クラスあたり15時間）

1～2日目 [クラス別]

身体ほぐし ～いろいろな動きに出会う～

身体ほぐしやペアワーク、アーティストが考えた普段見慣れない動き（振付）を通して、今まで知らなかった身体の使い方を学ぶとともに、合図に合わせて自由なポーズをつくるなど、身体を動かす楽しさを味わいます。

「疲れた」「ポーズが難しい」と言いながらも、前向きにチャレンジして、普段の学習とは違う子供たちの一面が見られた。 [先生]

ポーズは
人と違う方が
面白い！

2日目 [クラス別]

振付のあるダンス

アーティストが『北斎漫画』から発想を得た振付を伝えていきます。途中「自由に元気に踊って!」という自由ダンスのパートも。初めは戸惑って動き出せない子供も、「身体をこしこしするイメージ」などの具体的なヒントで、少しずつ動きが引き出されていきます。グループ同士で鑑賞し合う時間では、刺激をもたせて創作も加速。

社会科と関連した歴史学習の一環として、『北斎漫画』の事前学習を行った。

間違えてもOK!大きくやってみよう!自由に動くところも自信をもって挑戦して欲しい。一生懸命やった先に楽しいことがあるよ。 [アーティスト]

3～7日目 [クラス別]

自分たちのダンスをつくる

グループ（約6人）で、『北斎漫画』から創作のモチーフにする絵を選び、思い浮かぶイメージを身体で表現していきます。躍動感あふれる人物絵、不思議な妖怪の図、風景画など題材は多彩。複雑な形の再現に悩むチーム、動きのつなぎ方に苦戦するチームなど、グループワークを通して様々な課題や工夫を見つけていきました。



みんなで楽しく
踊れた！



練習はつらかったけど、
やり終わった時の
達成感はずかった！

8～9日目 [3クラス合同]

力を合わせて ～作品にまとめていく～

各グループのダンスの質を高めると同時に、全体での構成も確認。即興的に動く場面、振付を踊る場面、子供たちが創作した場面などを織り交ぜて作品を構成し、子供たちの個性、仲間との協力、生き生きとしたエネルギーが満ち溢れる作品に！

何人かで集まると、
一人ではできなかった
たくさんの振付が
できることを学んだ。

楽しかった！

10日目 [3クラス合同]

子供たちそれぞれの 『からだのキモチ』

発表の場は、保護者や地域の方に向けた学校公開日。時間をかけて取り組んできたグループワークを一つひとつ丁寧に見せながら、全員でのダンスシーンは迫力ある作品になりました。各グループが選んだ絵を体育館の壁にプロジェクターで投影し、スポットライトでの演出もしました。観客だけではなく、子供たち自身も他のグループがどんな絵から想像を膨らませて創作したのかを楽しみながら互いのダンスを鑑賞しました。

実践例参加者

●先生

6年生担任3人

3人中2人は5年から持ち上がり。身体的な学びやワークショップでのグループ創作に興味があり申込み。

●子供たち

6年生97人

身体を動かすことや、人前に出ること、人との関わりが得意な子もいれば苦手な子もいる。様々な表現の可能性を秘めた6年生97人。

●アーティスト

岩淵多喜子（振付家・ダンサー）

振付家・ダンサーの岩淵多喜子さんをメイン講師として、4人のアシスタント・ダンサーが参加。ダンス・カンパニーでの創作活動、学校でのワークショップなど、幅広くコンテンポラリーダンスの普及活動に努めているアーティスト。

●コーディネーター

芸術家と子どもたちスタッフ

打合せから毎回のワークショップ、振り返りまで全てに同行する、学校とアーティストと子供たちとの調整役。

ワークショップを経て 変化していく 子供たちの姿

実施後アンケートより

ワークショップを重ねるうち、仲の良い友達同士だけでなく、日ごろ関わりの少ない児童が仲良くなっていた。また、普段の授業の中でも表現が苦手な児童が「やってみよう」とする姿勢が見られるようになった。 [Aクラス担任]

グループワークを通じて、自分の考えを友達に伝えたり、失敗を恐れずに身体を動かしたりする勇気を持つことができた。自ら考え、話し合いを積極的に進める雰囲気ができ、その雰囲気に感化される児童がたくさんいた。 [Bクラス担任]

あそこまでできるとは思ってなかった。子供たち自身でパフォーマンスを築いていたのが家で話で分かり、本番での演技は感動した。 [保護者]

一つひとつの学校に応じて、柔軟なプログラムを組み立てていきます。



© 松本和幸

事例 1 | 小学校

関わり合いながら創作する アーティスト＝青木尚哉 (振付家・ダンサー)

子供たちが様々な身体の使い方や動きかし方を探っていくようなワークを積み重ねました。二人組で相手の身体を操るように動かす「マネキン&デザイナー」のワークでは、自分の考えと相手の反応から、一人ではできない面白い動きやポーズが生み出されました。また、言葉の連想や擬音語を使った「オモシロそうさく詩」を元に詩を考えて動きをつけることで創作ダンスもできました。

〈子供の感想〉

- ・指示を待つじゃなくて、自分からチャレンジしてみることを学びました。あと、自分のやりたいことをはっきり言えるようになりました。
- ・1年生から5年生の時のダンスは先生の考えたダンスを真似して覚えるだけで、自分で考えて踊るようなことはありませんでした。でも、今回のダンスは自分たちで考えて表現するダンスで、初めて知った時は「できるかな」と思いましたが、練習を繰り返してグループの人と力を合わせて動けるようになりました。

○実施例学校データ
対象＝小学校5、6年生51人
日数・時数＝10日間・20時間
時期＝6～7月
発表の機会＝学校公開日

事例 2 | 中学校特別支援学級

生徒と一緒に考えてつくる舞台 アーティスト＝棚川寛子 (舞台音楽家)

「お芝居あり、演奏あり、歌ありの舞台をみんなでつくろうと思うんだけど、どうかな？」というアーティストの提案で始まったワークショップ。カップを使ったリズム演奏や、絵本からイメージを膨らませて生徒が歌詞を考えたオリジナル曲の作成など、生徒の気持ちや意見に寄り添いながら、発表する内容をアーティストと一緒に考えました。

〈先生の感想〉

何もないところから、一つのものをつくり上げるためには、多くの力量が要求されますが、5組の生徒が苦手とするコミュニケーション力を、アーティストの方々のおかげで、生徒個々の関係づくりをいつも大切にしながら指導・支援をしていただき、生徒一人ひとりが他者に気持ちを開き、信じて努力できたことは大きいと思います。本番はさらに、自分がやってきたことを多くの人に認められ、たくさんの言葉をもらえたことが大きな自信につながったと思います。

○実施例学校データ
対象＝中学1～3年生 (特別支援学級) 16人
日数・時数＝10日間・19時間
時期＝7～10月
発表の機会＝合唱コンクール

事例 3 | 特別支援学校 中学部

みんなでつくる一つの作品 アーティスト＝東野祥子 (振付家・ダンサー)

アーティストの動きの真似からはじめ、「重い荷物を持つ」「ゴールキーパーがスライディング」などのイメージを元にしたダンスをリズムのある曲で踊り、楽しい雰囲気でも繰り返して取り組むことで、どんどん身体が動くようになり、二人組や、グループなど、誰かと一緒に踊る楽しさも味わいました。作品内容は生徒の好きな物をヒントにすることで、興味をもって創作に取り組みました。

〈先生の感想〉

初めてダンスのお手本を見せてもらったとき、「難しいのでは…？」というのが卒直な気持ちでした。しかし、アーティストのつくる楽しい雰囲気にも吸い込まれるようにしてリズムに乗り、身体を動かして始める生徒たち。「こんなこともできたの？」と、新しい発見がたくさんありました。スポットライトを浴びながら、たくさんの拍手をもらうという、素敵な経験を最後にすることができました。生徒たちの主体性を引き出していただき、我々教員にとっても非常に貴重な時間になりました。

○実施例学校データ
対象＝特別支援学校 中学部 3年生28人
日数・時数＝10日間・18時間
時期＝9～10月
発表の機会＝学園祭

令和5年度実施一覧 (学校)

学校名	地域	対象	参加人数	実施日数	授業時数	実施期間	発表の機会	アーティスト	ジャンル
小梅小学校	墨田区	小学6年生	52人	11日間	20時間	10～12月	学芸会	渡辺麻依	演劇
扇橋小学校	江東区	小学6年生	88人	9日間	18時間	9～10月	学校公開	青木尚哉	身体表現
下目黒小学校	目黒区	小学6年生	64人	11日間	19時間 (18時間)	10～12月	学芸会	辻田暁	身体表現
高井戸東小学校	杉並区	小学6年生	102人	10日間	19時間	7～9月	運動会	青木尚哉	身体表現
要小学校	豊島区	特別支援学級	18人	6日間	12時間	12～1月	保護者参観	城俊彦	身体表現
谷端小学校	北区	小学3年生	35人	9日間	17時間	10～12月	学芸会	康本雅子	身体表現
宮城小学校	足立区	小学5年生	83人	10日間	16時間	6～10月	学芸会	中村蓉	身体表現
鍾水小学校	八王子市	小学6年生	81人	10日間	22時間 (14時間)	6～10月	運動会	田畑真希	身体表現
藤橋小学校	青梅市	小学1・2年生	54人	10日間	19時間 (14時間)	7～10月	運動会	鈴木春香	身体表現
府中第四小学校	府中市	小学5年生	65人	9日間	18時間 (17時間)	11～2月	保護者参観	横山彰乃	身体表現
富士見台小学校	調布市	小学6年生	72人	10日間	17時間 (14時間)	9～11月	学習発表会	小暮香帆	身体表現
七国山小学校	町田市	特別支援学級	24人	8日間	16時間	9～12月	保護者参観	イーガル	音楽
小平第四小学校	小平市	特別支援学級	23人	7日間	14時間	12～1月	学校公開	北川結	身体表現
大松台小学校	多摩市	小学2年生	59人	9日間	15時間 (14時間)	4～5月	運動会	鈴木春香	身体表現
葛美中学校	葛飾区	特別支援学級	26人	10日間	18時間	9～12月	連合学芸会	東野祥子	身体表現
大坂上中学校	日野市	特別支援学級	40人	10日間	20時間	12～2月	保護者参観	田村一行 鉾久奈緒美	身体表現
東村山第二中学校	東村山市	特別支援学級	26人	10日間	19時間	12～2月	多摩地区特別支援学級 合同発表会	渡辺麻依	演劇
墨東特別支援学校	墨田区	小学部6年生	11人	9日間	18時間	9～12月	学習発表会	棚川寛子	演劇
品川特別支援学校	品川区	小学部2年生	24人	10日間	18時間 (13時間)	9～12月	学習発表会	田畑真希	身体表現
新島小学校	新島村	小学1・2年生	23人	12日間	24時間	7～10月	運動会	黒須育海	身体表現
三根小学校	八丈町	特別支援学級	6人	13日間	26時間	12～2月	学芸会	鈴木ユキオ	身体表現

※授業日数及び授業時数には発表を含む。※()内の授業時数は1クラスあたりに換算した時間数。

これまでの学校開催実績 (平成20年度～ 令和5年度まで)

年度	実施校数	参加人数
令和5年度	21校	976人 [※]
令和4年度	17校	773人
令和3年度	21校	894人
令和2年度	14校	708人
令和元年度	14校	535人
平成30年度	14校	735人
平成29年度	14校	698人
平成28年度	14校	642人
平成27年度	14校	629人
平成26年度	12校	605人
平成25年度	12校	618人
平成24年度	12校	491人
平成23年度	12校	540人
平成22年度	10校	447人
平成21年度	10校	584人
平成20年度	4校	301人

※令和5年度は見込。



© 仙道美穂子

よくある問合せとその回答

Q 実施するのは何日間？1日何時間？

全部で10日間程度を見込んでいますが、内容や学校の都合に応じて実施日数を決定します。基本的に1回(1日)あたり2コマ、計12～20コマ程度の授業時数の確保をお願いしています。

Q 発表の機会はどんなとき？

各学校の都合に応じて決定します。例えば、学校公開日や全校集会、保護者会の前に発表の時間を設定したり、学習発表会や学芸会、図工展覧会などの校内行事の機会を利用することも可能です。

Q アーティストはどう決まるの？

コーディネーターが各学校の希望内容を考慮し、最適と考えられるアーティストを決定します。アーティストは振付家や演出家、作曲家など、第一線で活躍する専門家です。

Q 費用はどれくらい？

基本的には学校側の財政面での負担はありません。ただし、学校に日常的にあるもの(楽器や文房具など)は、相談の上、お借りする場合があります。